

キュウリのアブラムシ類に対する定植時処理剤の効果

福島県農業試験場 病理昆虫部
平成16年農業試験場試験成績概要

1 部門名

野菜－キュウリ－病害虫防除
分類コード 03-07-23000000

2 担当者

中村 淳・佐々木正剛

3 要旨

キュウリに寄生するアブラムシ類(ワタアブラムシ主体)に対して主要な定植時処理剤(9剤)の効果を検討した。

- (1) 供試薬剤のうち防除効果が高く残効期間が長かったのは、アセタミプリド(モスピラン粒剤)を除くネオニコチノイド系粒剤のイマダクロプリド(アドマイヤー1粒剤)、クロチアニジン(ダントツ粒剤)、ジノテフラン(アルバリン・スタークル粒剤)、チアメトキサム(アクタラ粒剤5)、ニテンピラム(ベストガード粒剤)で、処理後約4週間効果が持続した。アセタミプリド粒剤の残効期間は、3週間程度とやや短く、株元施用のため降雨など水分条件の影響を受けたものと考えられた。
- (2) 有機リン系のアセフェート(オルトラン粒剤)、カーバメート系のカルボスルファン(ガゼット粒剤)については、処理直後の防除効果は高かったが、残効期間は短く、約2週間程度であった。
- (3) ピメトロジン(チェス粒剤)の防除効果はやや低いものの残効期間はネオニコチノイド系の各薬剤と同程度認められた。

4 その他の資料等

なし